

令和3年度 第8号 (202号)

立ろうだより



令和3年 11月1日 発行
東京都立立川ろう学校
校長 村野 一臣
〒190-0003
東京都立川市栄町1-15-7
電話042-523-1358
ファクシミリ042-523-6421



最後の立川祭



校長 ^{むらの} 村野 ^{かずおみ} 一臣

11月に入り、校舎の周りの木々も徐々に色付いてくる時期となりました。10月の給食の献立では、栗、サツマイモ、キノコ類、秋刀魚など秋の味覚を使った献立が多くありました。旬の素材を楽しみながら、季節の話題等ができることがとても有意義です。本校の給食は、栄養士さんや調理員さんのお陰で趣向を凝らしとてもおいしい給食となっています。献立を見ながら会話が増えることを願っています。

先月、緊急事態宣言が解除され日々の感染者数も落ち着いている状況です。基本的な感染予防を徹底しながら、都からのガイドラインにそって活動をしていきます。時差通学については、当面現状と同じ時間で授業を行います。季節的には、インフルエンザが流行する冬時期に向かっていきます。御家庭においても、引き続き健康観察等をお願いします。

さて、「立川ろう学校としての最後の立川祭」が、10月22日に行われました。感染防止のため、保護者の皆様、外部の方々の参観なしでの実施とさせていただきました。幼小中の保護者の皆様には、オンデマンド方式等で見ていただけるよう計画をしています。

今年の立川祭のテーマは、「笑顔と思い出つなげ70年の伝統を to the next stage」です。見える校内放送では、高等部の生徒会を中心にテーマの発表や各学部の出し物の紹介をする等、できる限り全校行事として一体感がもてるよう工夫をしました。今年は、小学部は、小低部「昔遊び」。小高部「立川ろう学校のあゆみと歴史」は展示の発表でしたので、事前にビデオで撮影での発表となりました。カメラの前で緊張する場面もありますが、緊張感の中でも堂々と発表する姿に成長を感じます。特に異学年での活動は、コロナ禍で制限されていまして、先輩の姿から学び、後輩を指導する中で学ぶことの意義を改めて実感しました。劇などの活動を通じて、言葉を広げたり、表現したりすることが自信につながり、一皮むけた感じがします。今月22日は開校記念日です。70年の歴史の重さを幼児・児童・生徒、そして保護者の皆様と共有して次につなげていきたいと思ひます。

小学部6年生、5年生が、全国聾学校合奏コンクールの第一次審査に応募をしました。新年度早々から参加を目指し、練習を重ね、出場する思いがどんどんと強くなり、目の輝きが変わってきています。一つのものを作り上げていく熱気が伝わります。5年生、6年生の姿に4年生も刺激され、立川祭で披露した「けんか太鼓」も素晴らしいものです。来年は私達も合奏に参加したいという憧れがそのパワーになっています。今回のコンクールにあたり、本校の卒業生の御兄弟である巴山建設様から楽器の寄附をいただきました。楽器が揃ったことで、教育活動が広がりました。紙面ではありますが、深く御礼申し上げます。



○ハートネットTV『わたしたちのバレーボール』：初回放送：10/27 放送済み再放送 11/3 13:05～(Eテレ) 出演：立川ろう学校 バレーボール部・押島高等学校 バレーボール部 ※NHK (Eテレ) のテレビ放送だけでなく、WEBの「NHKプラス」や「Tver」でも視聴可
○第二回 東京・台北ろう学校交流作品展：期間：11/20～24、会場：文春ギャラリー、令和元年度海外芸術プログラム参加生徒作品及東台北市立啓聡学校生徒作品 ※本校中3の生徒の作品が展示されます。